

次号予告

特集 整形外科の疾患から

ミルウォーキープレースを用いた場合の理学療法

..... 札幌肢体不自由児総合療育センター 深 沢 弘

ペルテス病の運動療法（当園に於ける管理体系に基づいて）

..... のじぎく園 小 島 裕

斜頸（筋性斜頸の治療，最近の動向と理学療法）...こども医療センター 増 川 一 郎

麻痺上肢の機能再建術と OT..... 豊島病院 椎名喜美子・他

変形性頸椎症..... 中国労災病院 富士本隆文・他

とびら..... 東大病院 木 村 信 子

講 座

統計学（1）..... 横浜国大 中 司 利 一

手の運動学（その1：手の動作とその基礎）..... 都老人研 鎌 倉 矩 子

研究と報告

大腿四頭筋筋力増強に於ける Isokinetic Exercise と

Isometric Exercise との効果の実験的研究.....九州リハ大 嶋 田 智 明

Isokinetic exercise の概念と exercise machine の応用.....自治医大 島田 孝・他

チームの中の PT・OT サイコロジストと PT・OT.....

古牧節子・黒田大治郎・松永宗端・古里正道・大内二男・谷合義且・佐藤 剛（司会）

編集後記

読者の皆様あけましておめでとうございます。

1976 年の1月号「PT・OT におけるリスクとその対策」についての特集をお届けします。本誌も月刊誌として変革し早4年目を迎えました，最近では月刊誌としての役割が非常に大きくなり，発行される日が楽しみになっています。

本号は日頃セラピストとして業務についており，おもわぬところで危機に遭遇する場が多々ありますが，その時の「リスクとその対策」について各疾患毎にとりあげられております。和才先生の「物理療法におけるリスクとその対策」は4つの問題点を中心に具体的に述べられており，わかり易く非常に参考になります。多忙さ故にみずごしている面，ちょっと観察をおこたった為に発作を誘発させてしまったとか……常に事が起きてしまってから大事を知って反

省させられる面があります。あの時あーしてあげればよかったのに，もう少し時間のゆとりがあったら，あの様な事はおきなかったのに……等と耳にします。交通災害の様に瞬間の出来事が多くの人に不幸をまねき起します。

予想される危険，可能性として起りうる危険等はセラピストの日頃の誠心誠意の努力によっていくらかでも未然に防止されるものであると思われます。この特集号を参考にしお互いに心がけていきましょう。

今年もこの PT・OT のジャーナルとの為に出来るだけ多くの方々の御意見を参考にによりよいものが企画され発展していく事を期待しております。（佐藤 馨）

編集室注：本号特集の一環として，都養育院の上田慶二氏にお書き戴く予定であった「脳卒中に伴う心疾患におけるリスクとその対策」は，同氏急病のため，掲載が不可能となった。ご了承下さい。なお，同論文は，上田氏の健康回復を待って「展望」欄に掲載する予定である。

<編集顧問>

天 児 民 和

九州労災病院長

五 味 重 春

府中リハビリ学院長

砂 原 茂 一

国立療養所東京病院長

津 山 直 一

東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎

川崎医科大学学長

（五十音順，以下同じ）

<編集委員>

上 田 敏

東大リハビリ部

荻 島 秀 男

都養育院リハビリ部

佐 藤 馨

神奈川リハセンター

鈴 木 明 子

府中リハビリ学院

谷 岡 淳

自治医科大学

田 村 美枝子

清瀬リハビリ学院

寺 山 久美子

都心障センター

松 村 秩

都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大 橋 博

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

小 林 夏 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 剛

田 原 澄 彦

富 岡 詔 子

奈 良 勲

藤 沢 しげ子

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

横 山 巖

和 才 嘉 昭

（担当 細田・松橋）